評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105016
法人名	社会福祉法人 道真会
事業所名	グループホーム はぶやま
所在地	松山市高岡町779番地6
自己評価作成日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>管理栄養士による献立で、栄養管理が出来ている。団地内にあり、山を背にして、季節の変化を体感できる静かな環境にある。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●事業所では、新たな取り組みとして、地域の方達が散歩途中に休憩していただけるように門扉を20時まで開けておられ、玄関先にはベンチを2台を置き、灰皿・自動販売機を設置されている。 ●玄関先のプランターで野菜を作ったり、隣の畑ではさつま芋を育て、利用者と一緒に収穫する喜びを味わえるよう取り組まれている。収穫したお芋でスイートポテトや芋餅を作り、おやつを楽しまれた。 ●利用者は、ちらし寿司がお好きのようで、月に3回献立に採り入れておられ、季節に合わせ筍、鮭、栗等、具を変えたり、手まり寿司にして楽しまれているようだ。回転寿司、ラーメン、セルフうどん等、外食してお好きな物を食べることもある。調査訪問時、利用者は「お正月には、きんとんやくわいが美味しかった」と利用者と同じ食事を食べながら、職員とお正月の食事の感想を話しておられた。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム「はぶやま」

(ユニット名) 2階 花組

記入者(管理者)
氏名 柳原 ゆかり

評価完了日 24年 12月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホールや事務所に掲示しており、朝の申し送り時の斉唱をはじめ、各職員がいつも念頭に置き、日々のケアの中で実践に取り組んでいる。しかし実際には出来ていないこともある。	
			(外部評価) 管理者は、理念を再検討されたが、「いつも笑顔、優しさ、思いやり」という現在の理念を「介護の基本」と考えて、理念を継続して「大切に実践に取り組む」こととされた。管理者は、職員に「体調不良時やイライラするような時にも理念に立ち戻り、感情をコントロールしてほしい」と伝えておられる。新人職員には、学校等で習ったことが現場でのケアにつながるよう、理念にもとづきながら導いておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区自治体の公園掃除に参加したり、周辺を散歩や、近所のスーパーへ買い物に出かけている。また、建物前、道路に面した場所に季節の花を植えて散歩を楽しんだり、1階玄関前のベンチは休憩用に使って頂いている。	地域行事への参加を通して、地域の方との交流も増えて来ていることも踏まえて、さらに今後は関係を深めていけるような取り組みを工夫していかれてほしい。職員は、建物の1階部分を利用して「イベントを開催したり、お茶を楽しめるようなコミュニティの場所を作りたい」とも考えておられた。運営推進会議等も活かして、いろいろなアイデアを出し合い、地域とのおつきあいを広げる取り組みにチャレンジしていかれてほしい。
			(外部評価) 回覧板で地域行事や地域の連絡事項等の情報を知ることができ、清掃や夏祭り等に積極的に参加するよう取り組まれている。そのような取り組みから、散歩途中で地域の方から声をかけてくださったり、あいさつして下さることも増えているようだ。事業所が建物の2・3階部分に所在することや1階のスペースは使用していないこともあって、地域の方が事業所まで来られることはあまりないようだが、事業所では、新たな取り組みとして、地域の方達が散歩途中で休憩していただけるように門扉を20時まで開けておられ、玄関先にはベンチを2台を置き、灰皿・自動販売機を設置されている。今年から近所の中学生の職場体験を受け入れたところ、利用者がたいへん喜ばれたことを受けて、管理者は今後も継続していきたいと話されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域で行われる行事に参加したり、日ごろより、話す機会を作るように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 前回の会議の概要説明、近況報告、その時の議題等、地域住民、利用者の家族、行政、事業者が集う場として意見交換を行い、要望等あれば必ず事業所内で話し合いの場を持ち、解決につなげていくようにする。今年度は開催が少なかった。	事業所のいろいろな事情等もあるだろうが、事業所の現状等を知ってもらうことも会議の目的のひとつでもある。今後は、年間計画等を立てて、計画的に会議を開催できるよう取り組みをすすめていかれてほしい。会議を通じて、困った時に助け合えるような地域やご家族との関係作り等にも取り組んでいかれてはどうだろうか。
			(外部評価) この1年間は、体調を崩す利用者が多発し、職員はケアに追われたこともあり、会議メンバーに向けて会議参加への働きかけが積極的に行えなかったこともあって、会議は開催できていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) サービス事業者会議には管理者が出席するようにしている。市の担当者へ、介護保険の事や生活保護受給者の生活について相談をしている。	
			(外部評価) 市の介護保健課・生活福祉課の担当者の方が、月に一度と、近くに来られた時にも「変わらないですか」と立ち寄ってくださっている。地域包括支援センターから、徘徊中のお年寄りの搜索依頼を受け、協力されることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修やマニュアルで勉強はしているが、難しい部分もあり、まだ理解は不十分な点がある。基本的に身体拘束はしていないが、やむを得ない時は、家族に十分に説明、理解を得ている。	
			(外部評価) 管理者は「必要以上の声かけも拘束につながる」と考えておられ日頃から職員に「焦らず、利用者を見守る」ことの大切さを話しておられる。落ち着かない利用者の様子がみられる時には、転落予防のため玄関すぐの非常扉を閉めることもあるようだ。かゆみが生じて皮膚を強く掻く方もおられ、以前はミトンの手袋を使用していたが、利用者の精神的な負担を軽減するため「5本指手ぶくろ」を着用してもらうようにされた。職員が手をさすったり、お好きな人形を抱っこしてもらう等して気が紛れるよう支援することもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ワーカー会や勉強家、日々の業務の中で、意見や情報を交換し、より良い介護を提供できるよう職務内容の見直しをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ワーカー会で話し合う機会はあるが、内容を理解できていない点もある。以前、実際に利用者に活用されており、直接の対応は管理者が行っていたが、その内容は職員にも報告があった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ケアマネージャー、管理者、家族、可能なら利用者、出来る限り話し合いの場を持ち、理解と納得を図るよう努めているが、まだ家族の中で不安な気持ちを持ったままでの事もある。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各フロアー入口に意見箱を設置しているが、思うようには活用されていない。毎月、各家庭に送る「小口預かり金」の明細と一緒にお手紙や写真をそえ、家族とのつながりを深め、こまめにお電話をかけさせていただき、日々の様子をお知らせし、意見を伺うようにしている。 (外部評価) 利用者個々の担当職員が毎月、ご家族にお手紙を書いておられ、その際には、必ず担当者の名前を記載されている。ご家族は担当職員に直接「いつもありがとう」と感謝の言葉をかけてくださることもあるようだ。管理者は「担当職員の名前をご家族に覚えてもらえたことで、要望等を話して下さるご家族も増えた」と感じておられた。ご家族は利用者の様子を見て「椅子に座る時、お尻が痛いと言っているがどうしよう」と相談があったり「靴をまめに洗ってほしい」等の要望があり、職員は、「その後、どのように対応したか」ということをご家族に報告されている。	「お世話になっているから」と意見や要望を出すことを遠慮するご家族の心情等も察して、ご家族が言い出しやすい雰囲気や機会を今後も工夫していかれてほしい。ご家族も一緒に活動するような機会を作ったり、職員の対応等をみていただきながら、ご家族から、より具体的に意見や要望を引き出してはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃より、どんな小さな事でも報告、連絡、相談を密にするよう心がけている。月に一度のワーカー会では、職員間で話し合う機会を持ち、少しでもケアの改善につなげていけるよう努めている。	
			(外部評価) 歌の好きな利用者が多いことから、職員の提案で、午後のおやつの前に、楽器を鳴らしながら利用者のお好きな童謡を歌う等して楽しむ時間を作っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回、個々で記入する(自分で自分を評価する)業務評価シートを作成している。その中で各自が目標をたて、職務についている。有休も希望に応じて取り入れている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員のスキルアップには積極的に取り組んでいる。今後、計画的に職員全員でケアの不十分な点を重点的に研修を受けていく予定である。勤務のひとつとして、研修を受ける事もあり、技術向上につなげている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者同士の会合や、交流会、外部研修等に積極的に参加をし、知り合う機会をつくっている。今後、相互の間で見学や訪問等をしていく予定である。	
			(外部評価)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 調査票に目を通し、過去の本人の生活の様子、状態等を把握している。声かけを多くし、行動を見ながら安心して過ごせるよう努め、職員間で連絡を密にとり本人の要望にすばやく応えられるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に、まず管理者と家族が話し合う機会を持ち、安心できるよう努めている。面会時、気付いた事を報告したり、要望があるか等を尋ね、お互いに解決に向けた話し合いを多く持っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族、本人からの聞き取りや、本人の特徴、状態をよく理解しておき、日常時の観察を密にし、何が必要なのかを見極め、支援につなげている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の生活ぶりを常に確認し、意思を尊重しながら、喜怒哀楽を共にして学びながら感謝の気持ちを忘れないように接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事がある時は、一緒に参加してもらったり、相互に本人にとって何が必要かを密に相談しながら、関わりを多くしていただくよう働きかけているが、理解をもらえない家族もいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には本人との大切なひと時をゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。家族と自宅への外泊、外出、お墓参り等、支援の協力もある。 (外部評価) 友人が訪ねて来られて居室でお話を楽しまれたり、友人と電話でお話する際には、電話を切る前に、職員から「お顔を見せてくださいね」と、一言添えておられる。ご家族が事業所に足を運んでくださるよう、職員は、利用者に必要な物品を持参いただけるようお願いされている。ご家族が来られて利用者ご本人の散髪をする方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールには大きなソファが置いてあり、個々の好きな時間に一緒に過ごせるようにしている。どこにいてもホール全体を見渡す事ができる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人、家族の意向を大切にしながら、電話をかけたり、手紙を出したりと、必要に応じて相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で本人との会話やふれあいを多くし、その仲から希望や意向等、具体的な事を聞き取り、実現に向けて出来る事から支援している。意思疎通の困難な人は、表情や動作から気持ちを汲み取るよう心がけている。 (外部評価) 職員は、利用者との会話から「昔住んでいたところ、小さい時に過ごしたところに行ってみたい。」「どれだけ変わっていてもいいから見てみたい。」「知っている人に会ってみたい」等、希望を探っておられる。童謡「ふるさと」を歌うと、昔のことを思い出され、利用者同士でお話するきっかけにもなるようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 調査票の把握、本人と家族からの話しや、前施設の情報等、一つでも多くの情報を全体で共有するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の様子をこまめに観察し、生活記録や生活日誌に状態を残している。気が付いた事も記録に残している。センター方式を使用し、個人の思いや現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) カンファレンスを実施している。本人や家族の参加は少ない。支援内容は、毎日チェックしており、次回の介護計画につなげている。状態変化のあった時はその都度新しく見直している。今年度は定期に見直しが出来なかった。</p> <p>(外部評価) ご家族の来訪時や月2回程度ご家族へ状況報告する際にケアや暮らしへの要望を聞いておられ、介護計画にも反映するようになっていく。毎日、計画の達成状況を「○・×」でモニタリングされており、3ヶ月から半年ごとに計画の見直しを行っていただける。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に毎日ケアプランに対し評価をしている。生活記録や日誌は、出来るだけ細かく記入するようにしており、個別のケースファイルに記録をしている。問題点等は意見交換をし、見直しや実践に活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の話を聞き、色々な工夫をしながら、職員間でよく話し合い、出来る限り希望にそえられる対応が出来るよう支援している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 何がしたいか、何が出来るかを見極め、畑仕事、お手伝い、掃除等を楽しみながら一緒に出来る事を提案している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体医院がかかりつけ医となっており、月に2回の訪問診療を始め、体調不良や不安事項のある時は24時間いつでも相談、受診できるようになっている。他、状況に応じて本人、家族の希望により眼科、皮膚科等の専門医は入所前からのなじみの病院で受診もしている。	
			(外部評価) 利用者は入居時、相談して2週間に1回往診があり24時間対応可能な母体病院をかかりつけ医に変更されている。専門医には、継続してご家族と受診されており、ご家族の都合によって職員が送迎されたり、職員が受診に同行することもある。歯科は、必要に応じて訪問診療も受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 急な発熱や体調の変化が見られた時は、その都度主治医や看護師等に電話をして聞いたり、訪問診療の際に相談、指示を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 日頃より、利用者の健康状態はよく観察し、報告している。入院を必要とした場合、それに至るまでの状況等の情報を提供すると共に密に連絡を取り合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 職員間で勉強会や話し合いはしているが、心構えは出来ていない。本人、家族との話し合いも不十分である。今後、関係者間でお互いの意向を尊重しながら、施設の方針を共有し出来るだけ希望に応えられるよう全力で取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 法人の方針で看とりは支援しないことになっている。在宅酸素を使いながらご家族とともに終末期の利用者を支援した経験もあるが、母体病院の判断で入院となり最期を過ごされたケースもある。利用者に終末期のあり方について希望をお聞きすると「家で死にたい」「痛くないよう、苦しく無いように。」と希望されるようだ。事業所で「看とり支援」について勉強する際、管理者は「看とるのは怖いものではなく、素晴らしいことだ」と思いを職員に伝え、職員の意識の変化を期待されている。今後、馴染みの顔ぶれに囲まれ、住み慣れた事業所で最期まで暮らしたいという利用者、ご家族の希望があった場合、「事業所でどのように支援できるか」ということについて、この機会にご家族も含めて話し合ったり勉強する機会を作ってみてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成している。個々で学んだり、ワーカー会や勉強会での話し合いは定期的に行っているが、実戦となると慌ててしまい冷静に対応できない時もある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成している。年2回の消防、避難訓練しており、昼夜両方の対応を勉強している。地区の防災士等にも、施設内の見学や話し合いをし、お互いに協力や体制をつくる事に努めている。他、災害時の訓練も行っていくたい。	
			(外部評価) 山際に立地する事業所でもあり、正面の山の両脇が危険区域になっていることから、大雨の日に、地域の防災士の方が事業所に来てくれて、事業所の「災害対策係」の職員と一緒に周辺の山の様子を見に行ったこともある。自治会の方には、「事業所を開放できる」ことや「米、スポーツドリンク、オムツ等の衛生用品を約1ヶ月分の保管がある」こと等を伝えておられる。消防署の協力のもと日中の火災を想定して避難訓練を行った際には、職員が実際に避難袋を使って訓練を行われ、近所の方も様子をみに来られた。利用者全員が安全に避難できるように、今後も地域との連携や事業所独自でも避難訓練等を重ねていかれてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であるという尊敬の念を持ち、優しく丁寧な言葉かけや対応を常に心がけているが、忙しい時は、つい言葉が雑になってしまう時もある。	
			(外部評価) 職員は、居室に入室する際には、必ずノックして利用者から返事があってから入室することを心がけておられる。管理者は「ダメ」等の「マイナス言葉を使わない」よう職員に話しておられる。職員は、「うるたえず、落ち着いて対応し、利用者のしたいことを尊重しながら支援したい」と話されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) まず本人の声を聞くように心がけている。その会話の中で、本人の思い等を探すようにしている。意思疎通の困難な人は、表情や仕草から気持ちを組みとるようにしているが、職員側で決定する事が多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは、大まかに決まっているが、その中で体調に合わせてながら個々のペースで過ごしている。自己決定が出来る人が少ないため、職員側で無理のない1日を過ごせるよう手助けする機会が多い。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 可能な人は、本人に服を選んでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な食材の下ごしらえや、お手伝い、料理法を話しながら調理をしたり、食事中に音楽を聞きながらゆっくりと食べていただいている。介助を必要とする利用者が多いため職員は一緒には食事はしていないが、メニューの話をしたり和やかな雰囲気づくりに努めている。	
			(外部評価) 献立は、母体病院の管理栄養士が立てておられ、食材は地域の商店から配達される。利用者の希望がある場合は、職員が管理栄養士の方に伝え、献立に反映してもらうようになっている。利用者は、ちらし寿司がお好きのようで、月に3回献立に採り入れておられ、季節に合わせて筍、鮭、栗等、具を変えたり、手まり寿司にして楽しまれているようだ。回転寿司、ラーメン、セルフうどん等、外食してお好きな物を食べることもある。調査訪問時、利用者は「お正月には、きんとんやくわいが美味しかった」と利用者と同じ食事を食べながら、職員とお正月の食事の感想を話しておられた。食後は、お膳を下げたり、テーブルを拭く利用者の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士がメニュー作成し、栄養バランスは取れている。個々に合わせて量を変えたり、キザミやミキサー食など、食べやすいような食事としている。水分、食事摂取量記載表を作成しており、必要な量は出来るだけ確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、全員必ず口腔ケアをしている。自分で出来る方には声かけをし、出来ない方には見守りや介助をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			定期的に排泄誘導をしたり、本人の動きに気を配り、サインを見逃さず声かけをしている。	
			(外部評価)	
			「夜間トイレまで歩くのはしんどい」等と言われる利用者には、夜間のみポータブルトイレを使用できるよう用意されている。日中、職員は早めの誘導を心がけ、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分を多く摂っていただくよう配慮する。散歩で身体を動かしたり、おやつを工夫している。排便チェック表を作成しており、毎日有無が分かるようにしている。便秘が続く場合は、主治医のもと、下剤の服用もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			夏は週三回、冬は週二回と、ほぼ曜日と時間帯は決まっているが、本人の体調や気分によっては、曜日や時間をずらしている。入浴中はできるだけリラックスできるよう配慮している。	
			(外部評価)	
			利用者からの希望で入浴回数を増やす場合もある。夏はシャワー浴のみを希望する方もいるが、冬場は、浴槽で温まれるよう支援されている。又、利用者の状態に応じて、1階のデイサービスがあった場所に設置されている特殊浴槽を使って入浴する方も複数おられる。時期によっては、ゆず湯を楽しまれることもある。ご自分のお気に入りのシャンプーを使う方や、皮膚の弱い利用者は刺激の少ない石鹸を使用されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			就寝時間は本人の意思を尊重している。眠れない時は、せかさずにゆっくりと話し相手になっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ノートを作成、また一人一人の薬手帳があり、薬の名や用法、成分等一目で分かるようになっている。薬は一ヶ所にまとめて保管するようにしており、在庫も把握している。分からない事があれば、かかりつけ薬局に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 簡単なお手伝い等、毎日してくれる方もいる。歌やゲーム、散歩やおしゃべり等、一人一人にあった楽しみを、生活の中から職員が見つけ提供、支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望には添えない事もある。日頃の希望を聞いておき、日曜日等にドライブに出かけている。家族の方と一緒に外出(お墓参り)等、支援をいただいている。 (外部評価) 利用者は、近くの神社・天満宮・公園に職員と散歩に出かけておられる。お正月には、初詣にも行かれた。1階にあったデイサービスの移動に伴い事業所の使用できる車が小型車1台になり多人数での外出は難しいようだが、利用者の希望等も聞きながら、順番に車で回転寿司や飛行場、海を見に行ったりされている。利用者の体調等も考慮して、1時間程度で出かけられる場所を探して支援されている。調査訪問時には、「私は月2回はスーパーにお菓子を買に行くのよ」と教えてくださった利用者もあった。	利用者からは、「みんなで出かけた」と希望があり、管理者は、利用者全員での外出の機会を増やしたいと考えておられた。利用者が出かけて楽しめるような機会を作っていけるようサポーターを募ったり、又、外出支援についてはご家族の希望等をお聞きして、一緒に楽しめるような機会等も作っていかれてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物の際は、家族の方や本人と相談しながら職員側で対応している。ご自分でおこずかいを持たれている方は、実際にスーパーなどで、あれこれ考えながら買い物をされ、楽しみの一つになっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 文字を書く事が出来る人が少ないため、自ら手紙を出す事は少ないが、小口預かり金明細送付の際に添える、一言メッセージや「写真」等で近況報告をしている。職員が電話をかけ、本人に変わり話しをされている事はある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			テーブルやソファの配置を変えたり、季節に応じた手作りのカレンダーや花を飾っている。	
			(外部評価)	
			調査訪問時、利用者は、居間でテレビを見たり、ソファでは利用者同士でおしゃべりして過ごされており、利用者は「明るく日差しが射していて、ソファに座ると暖かい」と感想を話しておられた。居間には、利用者と職員が折り紙で作った正月用の壁飾りや正月用の花が飾られていた。階段の踊り場や棚には、造花を飾り「明るい雰囲気作り」に取り組まれている。玄関先のプランターで野菜を作ったり、隣の畑ではさつま芋を育て、利用者と一緒に収穫する喜びを味わえるよう取り組まれている。収穫したお芋でスイートポテトや芋餅を作り、おやつを楽しまれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			ホールには大きなソファが置いてあり、みんなが集まって話しをしたり、テレビを見たり、思い思いにゆったりと過ごしている。南側の大きなガラス窓あたりでは、ゆっくりのんびり、ひなたぼっこ等出来る場所もある。	
			(外部評価)	
			本人が使いなれた寝具や家具、中には仏壇を置かれ、気持ちのより所としている人もいる。動物好きな方等は、猫や動物の写真や絵等を飾ったり、たたみを敷いたり工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			居室にお孫さんやご家族の写真、好きな歌手の写真を飾っている方もみられた。仏壇を持ち込んで居る方は、毎朝、水をお供えて手を合わせることを続けておられる。山側の居室の利用者は、「今はみかんが生っているでしょう。この部屋からは、山の四季が見えるのよ」と話してくださいました。洋服が見えやすいようハンガーに洋服を掛け、ご自分で選ぶことを楽しむ利用者や洗面台に観葉植物を置き、水やりして大切に世話している利用者もいる。各居室に洗面台が設置されている。	
			(外部評価)	
			居室にお孫さんやご家族の写真、好きな歌手の写真を飾っている方もみられた。仏壇を持ち込んで居る方は、毎朝、水をお供えて手を合わせることを続けておられる。山側の居室の利用者は、「今はみかんが生っているでしょう。この部屋からは、山の四季が見えるのよ」と話してくださいました。洋服が見えやすいようハンガーに洋服を掛け、ご自分で選ぶことを楽しむ利用者や洗面台に観葉植物を置き、水やりして大切に世話している利用者もいる。各居室に洗面台が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			手すりを設置している。ポータブルトイレを置いたり、車椅子自力駆動や、歩行に障害となる物は取り除く等工夫している。	
			(外部評価)	
			手すりを設置している。ポータブルトイレを置いたり、車椅子自力駆動や、歩行に障害となる物は取り除く等工夫している。	